

水まつりを通じ、農業用水の大切さと農業の恵みを島内外に発信

- 地域社会の振興機能 -

宮古水まつり実行委員会



水まつりのオープニング
セレモニー

宮古島は、透水性の高い石灰岩に地表を覆われ、川も湖もないため、長年、生活用水や農業用水の確保に苦労してきた。このため世界で初めて大規模な地下ダムを造って農業用水を確保した結果、今日では島の各地に青々としたさとうきび畑が広がり、マンゴーなどの亜熱帯果樹や野菜の生産が盛んになるなど、新しい農村景観が形成されてきている。

地元の関係機関を構成員として設立された「宮古水まつり実行委員会」は、水に苦労してきた島の歴史を次世代に伝え、その大切さを宮古島内外に周知するため、2010年から毎年、地域参加型の祭りを開催し、農業の恵みを島内外に発信している。



沖縄県宮古島市

【地域社会の振興、伝統文化の継承】

会が毎年開催する「宮古水まつり」では、地下ダムにより確保された農業用水と触れあえる特設プールを設けたり、地下水を利用した流しそうめん（上水道）を行うとともに、島の農村に伝わる伝統芸能も披露される。これらを通じ、島内外からまつりに参加する非農家の方々に、豊かな農業用水が今日の宮古島の農村の基礎となっていることをPRしている。

また、まつり会場内には地下ダムの水を使って作られた地域農産物の直売所を設置し、豊かな水を使った地元の新鮮な野菜・果樹類をPRし、島民の地産地消や、観光客による地元農産物の消費拡大の架け橋になる役割も果たしている。

【体験学習と教育】

会では、水まつり期間中、地下ダムの役割や機能について展示している資料館の無料開放や農業用水関連施設の見学バスツアーを実施。農業用水が使えるようになったことでサトウキビ単作農業から野菜・亜熱帯果樹等の作付けが増え、地域の農業の姿が大きく変わってきたことなど、農業用水や、それを確保する施設の重要性について島民が学べる機会を提供している。



農業用水を張った
プールで遊ぶ子供達



農業用水の利用で青々と
生育したサトウキビ



毎年、多くの島民や
観光客が参加



模型を用いた地下ダムの
説明を受ける参加者



地下ダム資料館を
見学する親子